2024年9月11日

東北電力　取締役社長　樋口康二郎様

さようなら原発岩手県集会実行委員会
事務局　岩手県消費者団体連絡協議会
会長　川村　元

**女川原発２号機の再稼働を中止し、再生可能エネルギー優先の事業へ転換することを求めます。**

御社は、7月１８日に女川原発２号機の再稼働を9月から１１月に延期すると発表しましたが、私たちはたとえ原子力規制委員会の新基準に適合させるために「安全対策工事」が行われたとしても、女川原発の危険性、原発そのものがもつ問題は解消されないとの考えから、再稼働の中止を強く求めます。

女川原発２号機は、１３年前の東日本大震災の地震で大きく揺さぶられて耐性が低下し修理を重ねてきた老朽原発で、東京電力福島第1原発と同じ沸騰水型軽水炉であるという危険リスクが高い原発です。さらに、元旦の能登半島地震では活断層が予想を超えて大きく動き地盤が4メートルも隆起するなどしましたが、女川周辺にも連動しそうな活断層があるといわれています。その知見に沿った検証や見直しを行わない再稼働は危険です。女川と岩手県一関市とはわずか80キロの近さであり、隣県の原発だからと静観はできません。

８月には南海トラフ地震への警戒情報が出されました。女川原発２号機が建設された約３０年前に比べ巨大地震についての新たな知見は増えています。地震大国日本は、二度と安全神話を妄信することなく危険を回避するために原発再稼働をやめ、原発依存度を減らす方向に進むべきです。

原子力発電所の最大の問題は、人が管理し続けなければならず、管理できなくなった時の事故の被害は想像を絶するほど大きいことです。御社は、原子力発電所の稼働が $CO_2$ 削減に資するもので環境面において優れていると説明されますが、ひとたび深刻な事故が起こった場合の環境汚染はすさまじく、福島原発事故が我が国始まって以来の最大の公害であり環境汚染であるという認識に立てば、環境問題をもちだして原子力発電所の運転継続の根拠にすることは筋違いです。事故が起きれば数万人の避難者をだし、住民の日常の安寧を壊し、何十年と長い処理期間がかかる原発という発電方法にコスト論は通用しないと考えます。

私たちは、御社が電力供給というインフラを担い地域経済を振興させていることに感謝しています。だからこそ地元で長く続く企業として、上記のような原発の危険を避け、後世に核のゴミ処理を担わせないよう、原子力による発電から撤退し、再生可能エネルギーの開発と供給に力を注いで欲しいと切に願います。

以上の理由から、以下 2 点を強く要望いたします。

1．女川原発２号機の再稼働を中止してください。
2．原発依存度を減らし脱原発に舵をきり、再生可能エネルギーの開発・供給に力を注いでください。